

有限会社塩澤工芸

Pick Up!

平成30年度

事業計画名

全自動NCラジアルソー導入による生産性の向上と販路拡大を目指す

概要

日本で約500年の歴史のある組子工芸は主な工程が手作業であることから生産性や品質に限界があり納期限が延長される。

そこで、最先端の機械導入により手作業を機械化し製作期間の短縮や高品質を図り生産性の向上と販路拡大を目指す。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術

＜事業類型＞ 小規模型
設備投資のみ

成果

全自動NCラジアルソーは正確に部材加工をしてくれて、かつ量産も可能になったことから、従来の手加工と比べて木片加工の工程にかかる時間を60%短縮できた。



組子製作中の塩澤社長



作品「花あかり」



展示場



作品「桜」

伝統の手づくり組子をアートインテリア作品に。
生産性向上を実現し、世界を視野に販路拡大を目指す。

“受け身” から “攻め” に転換

日本で長い歴史を持つ伝統の技、組子。小さな木片を組み合わせて精密な模様をつくりあげる建具製作技術



「夏障子」内閣総理大臣賞受賞作品

の中で最も高度な技術といわれ、座敷の書院障子や欄間などの装飾に使われています。

塩澤工芸は2000（平成12）年、塩澤正信社長が組子職人として追求する組子工芸の製作・販売を目的に創業。その翌年、全国建具展示会において最年少（27歳）で内閣総理大臣賞を受賞する快挙を果たしました。その後、曲線を多用した作風を確立し、組子工芸アーティストとしてアートインテリア作品を中心に手がけています。

塩澤社長が組子に使うのは、200～2000年ほど土中にあった「神代」など32種類の銘木。ミリ単位に細かく刻み込んで仕上げた木片を一作品あたり数万個、すべて手作業で幾何学模様や花などの形に組み込んでいきます。作品完成まで平均2～3カ月。価格は数百万～数千万円にのぼり、顧客は個人の富裕層や企業などが大半となっています。

同社の強みは、生産体制を建具の「受注生産」から、組子工芸の「モデル作品展示型」へ、つまり“受け身”から“攻め”の販売に転じたこと。工房にギャラリーを併設し、組子の歴史や製作工程、木片などの部品、主な作品などを展示。来館者に塩澤社長の作風を見て感じてもらうことで受注につなげ、付加価値の高い作品づくりに結びつけています。価格も自社設定するため安定した収益確保が可能になりました。



アートインテリア作品「願い」

もうひとつの強みは、後継者が育っていること。塩澤社長の4人の子ども達が技術、海外への販路拡大など、それぞれの得意分野で組子工芸の事業継承に取り組んでいます。

木片づくりの自動化を実現

同社にとって大きな課題は、1作品に平均12～13種類、5万～8万個も必要となる、木片の加工。数ミリから10分の1ミリ単位の加工を手作業で、しかも一つ一つを同じ精度



全自動NCラジアルソーによって製作した木片

に仕上げる非常に集中力と根気のいる作業です。これが全工程の半分を占めるため、納入できる作品は年間5～6点に限られます。

そこで同社は平成30年度補正ものづくり補助金を活用。最先端の加工機械全自動NCラジアルソーを導入し、木片づくりの自動化に取り組みました。その結果、加工時間は60%、作品全体にかかる時間も30%、それぞれ短縮し、生産性向上と従来の10倍の精度向上を実現。その結果、年間9～10作品以上の製作が可能になり、売上げと収益の向上につながっています。



全自動NCラジアルソー

同社は木片づくりの自動化によって生まれた時間を有効に活かし、新商品開発や技術の向上、新たな顧客の開拓を目指した取り組みも進めています。



有限会社塩澤工芸

代 表 代表取締役 塩澤 正信
創 業 2000（平成12）年10月
資 本 金 300万円
従業員数 3名
本 社 下伊那郡高森町山吹977

TEL.0265-48-6047 FAX.0265-48-6048

事業内容 組子細工製作・販売

<https://shiozawa.jp>

